

## Ⅲ-03 社会

### 問題構成

本校の社会の入試問題は、社会的事象に対する関心の有無、基本的知識の確認、それぞれの事象の相互関連性やその背景について理解する力を問うことに重点を置いて出題しています。

問題は各回とも歴史分野、地理分野、公民分野からそれぞれ1題ずつ、計3題の大問で構成されています。その際、小学校における社会科の履修状況を考慮して、歴史分野・地理分野の大問に比べ、公民分野の大問の配点は少なめに設定しています。問題傾向は各回とも大きな違いはありませんが、2017年度入試の各回ごとの出題テーマを以下のようにあげておきます。

- 第1回
  - ① 祭りの歴史をテーマにした歴史分野の問題
  - ② 人口変動をテーマにした地理分野の問題
  - ③ 日本の平和主義をテーマにした公民分野の問題
- 第2回
  - ① 火に関わる歴史をテーマにした歴史分野の問題
  - ② オリンピック、パラリンピックをテーマにした地理分野の問題
  - ③ 政治参加をテーマにした公民分野の問題
- 第3回
  - ① 桜をテーマにした歴史分野の問題
  - ② ジオパークをテーマにした地理分野の問題
  - ③ 格差や富の再分配をテーマにした公民分野の問題

以上のように、各大問はあるテーマにそって作られていますが、実際の各設問はそのテーマに限定せず、幅広い分野から出題しています。ですから、どこかの分野や範囲に集中的に力を入れるということではなく、まずは基本的知識をしっかりと確認し、全体をまんべんなく学ぶ堅実な勉強を心がけてほしいと思います。設問の数は2017年度第1回は38問、第2回は40問、第3回は39問でした。

設問の形式は、基本的な用語の知識を確認する記述式問題をはじめ、ある事柄についての正確な理解や詳細な知識を問う正誤判定問題、社会的用語をはじめ地図やグラフ内の記号などを選択させる問題、出来事が起こった順番に並べ替える問題など、多様です。中には問題文中の空欄や下線部に関する設問以外も出題する場合があります。設問の中心は基本的な知識を問う問題や、その知識を前提に考えれば解ける問題です。社会科の学習は、覚えればいいというものではありませんが、思考する前提として正確な知識は不可欠です。

また、本校では図表の読み取りや歴史上の事象・現代社会の問題の背景にある因果関係などを問う、1行程度（字数指定の場合もあります）の記述問題を出題しています。こうした問題を出題するのは、普段から社会的用語の意味や、ある出来事が起きた背景や理由を考えながら学ぶ姿勢を持ってほしいからです。地理分野では図表・統計問題も必ず出題しています。教科書や参考書などに載っている資料をじっくり読み込んで、考える習慣をつけてほしいからです。公民分野では時事的な知識を問う問題を必ず出題しています。常に社会に対して関心を持ち、新聞やテレビを通してニュースに触れてほしいからです。その際、ニュースの内容と普段学習している事柄を結びつけて考えるとより理解が深まります。

なお、社会の入試問題では、問題文中の空欄補充や、用語を答える単純な記述問題に関して、原則として漢字指定や文字数指定、場合によってカタカナ指定などによる解答を求めています。そのため、参考書や教科書などで漢字で書かれている用語については、漢字で書けるようにしておく必要があります。解答にあたっては、各設問ごとの指示に従って解答するように心がけてください。

また、分野によっては問題文を設けずに出題される場合もあります。

## 歴史分野の出題意図

現在・未来を考える上で、歴史を学ぶことは不可欠です。本校では、中1・中2の2年間をかけて、日本を中心とする歴史を学びます。その前提として、本校の入試では、日本の歴史についての基本的かつ正確な理解を求めています。

例えば、第2回の①問3は、鎌倉時代についての問題ですが、幕府の仕組み、将軍の交代、二毛作、和歌集など、政治・社会・経済・文化といった分野についての選択肢があります。アは政治一般をあつかう役所が公文所（のちの政所）で、裁判に関する仕事を担当する役所が問注所なので誤り、イの源実朝が頼朝の孫ではなく子で、2代将軍源頼家の弟なので誤り、エは『古今和歌集』は平安時代中ごろに紀貫之によって編さんされたもので、後鳥羽上皇の命令で編さんされたものは『新古今和歌集』なので誤りです。したがってウが正解となります。鎌倉時代に西日本など先進地域で始まった二毛作は、室町時代には全国へ普及することになります。このように、一つの問題でいくつかの時代分野について問う出題があるので、全時代・全分野ごとに正確な知識をまんべんなく身につけてほしいと考えています。

一方、歴史の正確な知識を身につけようとする、その時代に関する知識の習得ばかりに集中してしまいがちです。しかし、「木を見て森を見ず」の状態になってはいけません。本校では、知識の正確さはもちろんですが、各時代の個々のできごとを歴史の中にきちんと位置づけて理解する力を求めています。このような力が試される設問として、各回ともおおまかな歴史の流れを問う並べかえ形式の問題を必ず出題するようにしています。並べかえというと、「年号をまる暗記して順番にする」ととらえられがちですが、歴史的人物やできごとの流れをその時期の時代背景の中で大きくとらえて位置づけることを求めています。

例えば、第1回の①問9は、「源氏にゆかりの深い鎌倉の鶴岡八幡宮に関係するできごと」を並べかえる問題ですが、A～Cのできごとの詳細やその年を暗記しておく必要は一切ありません。選択肢に関わる人物やできごとの背景について理解していれば正解できます。Bの源義家が11世紀後半に二度の東北地方の戦乱を鎮圧し、源氏は東国に勢力を拡大しました。その後、義家の子孫である源頼朝が鎌倉に幕府を開きました。頼朝の死後、前述のように頼朝の子頼家が2代将軍に、その弟実朝が3代将軍に就任しますが、Aのように実朝は、甥の公暁に殺害されました。その後幕府の実権は執権の北条氏が握るようになりました。そのような中、8代執権北条時宗の頃、元寇が起き、御家人が動員されました。その一人がCの竹崎季長です。彼は『蒙古襲来絵巻（絵詞）』を作成させた人物として知られています。したがって、鎌倉時代の流れを考えれば、「ウ（B→A→C）」という正解を導くことができます。こうした並べかえ形式の問題に対応するためにも、あるできごとがどの時代の特徴を表しているのか、さらに前後の時代とどのような関連や相違があるのか、といった点まで意識して学習して下さい。

### 第2回

1

問3 鎌倉時代について述べた文として正しいものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 鎌倉幕府は、中央に政治一般をあつかう問注所（のち政所）や、裁判に関する仕事を担当する公文所を設置した。
- イ 鎌倉幕府の将軍は、源頼朝から子の源頼家、さらに孫の源実朝と受けつがれたが、実朝が暗殺され、源氏の将軍はわずか3代で途絶えた。
- ウ 鎌倉時代は農業技術が発展し、西日本では米の裏作として麦などを栽培する二毛作が行われるようになった。
- エ 鎌倉時代は多くの優れた和歌がよまれ、後鳥羽上皇の命令によって『古今和歌集』が編さんされた。

正解 [ ウ ]

- 問9 源氏にゆかりの深い鎌倉の鶴岡八幡宮に関係するできごとについて述べた次のA～Cの文を時期の古いものから順に並べかえるとどうなりますか。正しいものを後のア～カから一つ選び、記号で答えなさい。
- A 源実朝が、鶴岡八幡宮の境内で殺害された。  
 B 源義家が、2度の東北遠征の間に鶴岡八幡宮を修復した。  
 C 九州の御家人竹崎季長が、鎌倉にのぼり、鶴岡八幡宮を参拝した。

正解 [ウ (B→A→C)]

## 地理分野の出題意図

地理分野では、日本各地の自然や産業、世界地理の基本的理解、地図・グラフなどの読み取りを中心に出题しています。今年の入試問題でも、地図・グラフや統計資料の読み取り問題を多数出題しました。以下に2題を例に挙げながら、その出題意図について説明していきましょう。

第2回の問8では、長野県、新潟県、富山県、石川県について、自然地理に関する3つの指標の組み合わせが問われています。まず隣接する県の数についてはBの数が突出していますが、ここでは他の3県が日本海に面しているのに対し、長野県が内陸県であることを想像しなければなりません。問われているのは具体的な県の数でなく、県の位置なのです。県庁所在地の年間降水量についても、個々の都市の降水量を知っておく必要はありません。やはり長野県が内陸県で中央高地の気候のために降水量が少ないことを数字から判断できれば、Bは長野県で決まりです。となると組み合わせ的にDが新潟県になりますが、その特徴は信濃川が流れていることで一級河川の河川延長が長いことでしょう。富山県と石川県についてはやや迷うところですが、ここでも想像力が必要です。富山県には学校や塾の授業によく登場する神通川や黒部川などの大河川がありますが、石川県についてはこれといって思いつく川がないはずで、よってAが富山県、Cが石川県になります。

第3回の問2では、愛知県、沖縄県、埼玉県、福井県について、産業や人口、生活に関する指標の組み合わせが問われています。まず第3次産業の有業者割合についてはウが高くなっています。第3次産業、すなわちサービス業については商業や金融業などのほかに、観光業も重要な位置を占めます。となると、アメリカ軍基地関係のサービス業が発達しているほか、リゾート地として観光が盛んな沖縄県ではないかと推測がつかます。これだけでは根拠が弱いとするならば、次にポイントになるのは昼夜間人口比率です。昼夜間人口比率とは、夜間人口(常住人口)を100とした時の昼間人口の割合を示しますが、都道府県外との移動が多ければ100から遠ざかり、少なければ100に近くなることを想像しなければなりません。毎日通勤や通学のために船や飛行機で沖縄県を往来する人がいるでしょうか？となるとウの100という数字は県全体が離島で他県と境界を接していない沖縄県以外にあり得ません。一方、この比率は大都市圏の中心に位置する都道府県で100を超え、逆にそこに隣接する都道府県は100を下回るようになりますから、アが愛知県、エは埼玉県であるとわかるでしょう。イは福井県ですが、福井県は1住宅あたり延べ面積、持ち家住宅率ともに富山県について全国2位で、とても住みやすい県として知られています。一方で都市圏にある県が低いことがわかりますが、ウの沖縄県が低いのは借家の割合が高いことがその理由の一つとされています。

地理の問題では、細かい知識を問うのではなく、都道府県の位置や地形、面積、人口、産業などの基本的な知識を元に思考し判断する力や、地図を頭に浮かべて考える力が問われています。また、与えられた資料をヒントに想像力を働かせるとともに、資料から読み取ることができる情報から総合的に判断する力が求められることは言うまでもありません。

第2回

2

問8 下線部⑧について、次の表は北陸新幹線が通る長野県、新潟県、富山県、石川県について、隣接する件の数、県庁所在地の年間降水量、一級河川（※）の河川延長を示したものです。表中のA～Dと県の組み合わせとして正しいものを後のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

※一級河川とは、国土保全又は国民経済上特に重要で、政令で指定された一級水系の河川のうち、河川法による管理を行う必要があり、国土交通大臣が指定（区間を限定）した河川を言います。

	A	B	C	D
隣接する県の数	4	8	3	5
県庁所在地の年間降水量(mm)	2,300.0	932.7	2,398.9	1,821.0
一級河川の河川延長(km)	1,003.5	4,764.5	268.4	3,329.7

〔理科年表 平成28年〕、国土交通省ホームページ資料より作成

- ア A—石川県 B—長野県 C—富山県 D—新潟県  
 イ A—石川県 B—新潟県 C—富山県 D—長野県  
 ウ A—富山県 B—長野県 C—石川県 D—新潟県  
 エ A—富山県 B—新潟県 C—石川県 D—長野県

正解 [ ウ ]

第3回

2

問2 下線部②に関連して、次の表は、愛知県、沖縄県、埼玉県、福井県のいずれかの県における第三次産業の有業者割合（2012年）、昼夜間人口比率（2010年）、1住宅あたり延べ面積（2013年）をまとめたものです。愛知県と沖縄県にあてはまるものを表中のア～エからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

	第3次産業の有業者割合 (%)	昼夜間人口比率	1住宅あたり延べ面積 (m <sup>2</sup> )
ア	62.7	101.5	93.5
イ	64.2	100.1	143.8
ウ	78.6	100.0	75.6
エ	72.3	88.6	85.4

〔データでみる県勢2016年版〕より作成

正解 [ 愛知県…ア  
沖縄県…ウ ]

### 公民分野の出題意図

私たちは社会の中で生きており、同時に社会を創る主体でもあります。本校では中3から公民の学習が始まりますが、その中で最も重視していることは、社会に対する当事者意識と責任感を持つようになることです。その前提として、受験生には社会の仕組みについての基本的な知識を確実に身につけて欲しいと思います。みなさんは、日本国憲法の内容や、国政と地方自治のしくみ、財政や経済のしくみ、外交や国際関係などを幅広く学習していると思います。まずは、基本的な事柄を丁寧に学習しましょう。問題の大半は、基本的な事柄を問うもので、さまざまな分野からまんべんなく出題しています。

ただし、単に多くの用語を暗記することを求めているではありません。社会に関わる仕組みや原理について、きちんと理解する習慣をつけてください。例えば、第3回の[3]問3では、政府と日本銀行が行う景気対策の方法が問われています。金利の上げ下げや増税と減税、世の中に出回るお金の量の増減など、仕組みを理解していれば覚えなくても解けますが、理解せずに丸暗記していると問われ方が変わった時に分からなくなるかもしれません。不景気の際は、消費を増やすために、

人々の手元にお金が沢山ある状態を導く必要があります。減税すれば政府が吸収するお金が減り、人々の手元に残るお金が増えます。金利を下げれば貯金して得られる利子は小さいので貯金するメリットが減り、逆に利子が小さいので銀行から借りやすくなって人々が使えるお金が増えます。

また、今日の前で起こっていることにも目を向けて欲しいと思います。社会で起きていることは他人事ではありません。本校の入試では、社会の動きにきちんと目を向けているかどうかを問うために、時事的な問題を必ず出題しています。単純に時事的な知識を問うこともありますが、基礎的な内容とからめて問うこともあります。ニュースを見たら、関連する内容を参考書などで確認する習慣をつけましょう。例えば第2回の[3]問4では、2016年に行われた参議院議員選挙について問われています。Aの野党が候補者を一本化したということは、選挙の時期にたびたび報道されました。何となくニュースを見ているだけでも目に入ったと思います。これは単純に時事的知識を問う部分です。Bの自由民主党からの当選者が121人であるはずがないことは、基本的な知識があれば分かります。そもそも参議院議員選挙が3年ごとに半数の改選である事が分かっているならば、ニュースを見ていなかったとしても、改選議席の全てを自民党が獲得することは起こりそうもないと想像できるでしょう。自民党の当選数は55、公明党は14で、あわせて改選議席(121)の過半数を獲得していますが、この数字を知らなくてもBは誤りだと分かります。

第3回

3

問3 下線部③に関連して、景気の調整は政府と日本銀行がそれぞれ行っています。その一般的な政策について述べた文として正しいものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 不景気のとき、政府は景気を刺激するために増税を行い、日本銀行は金利を上げるための政策を行い、世の中に出回るお金の量を減らそうとする。
- イ 不景気のとき、政府は景気を刺激するために減税を行い、日本銀行は金利を下げるための政策を行い、世の中に出回るお金の量を増やそうとする。
- ウ 好景気のとき、政府は景気を抑制するために増税を行い、日本銀行は金利を下げるための政策を行い、世の中に出回るお金の量を増やそうとする。
- エ 好景気のとき、政府は景気を抑制するために減税を行い、日本銀行は金利を上げるための政策を行い、世の中に出回るお金の量を減らそうとする。

正解 [ イ ]

第2回

3

問4 下線部④に関連して、次のA・Bの文の正誤の組み合わせとして正しいものを後のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

- A 複数の選挙区で、民進党などの野党が候補者を一本化した。
- B 自由民主党からの当選者は121人であった。

- ア A—正 B—正
- イ A—正 B—誤
- ウ A—誤 A—正
- エ A—誤 B—誤

正解 [ イ ]